

空気と水のテクノロジー
RYOWA REPORT

株主通信 vol.32

第67期 業績のご報告

平成27年4月1日～平成28年3月31日

- ① ごあいさつ・トップインタビュー
- ④ 施工実績
- ⑤ テクノ菱和の技術の紹介
- ⑦ 連結財務情報
- ⑨ 会社概要／株式の状況



株主のみなさまには、平素より格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。また、このたびの熊本地震により被災されたみなさまには、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、テクノ菱和グループは、第67期(平成27年4月1日から平成28年3月31日)の決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

株式会社テクノ菱和
代表取締役社長

黒田 英彦
Hidehiko Kuroda

経営理念

「空気と水のテクノロジー」を通じて
環境にやさしい生活空間の創造を目指す。

環境エンジニアリングを中核事業とし、
ひろくお客様から「信頼」される企業を目指す。

人材の育成・教育を重視し
働き甲斐のある企業を築き、社会に貢献する。

行動規範三訓

逞しい心身の鍛錬

意志疎通の徹底

技術力の研鑽

トップインタビュー

Q 当期の建設業界を取り巻く環境は
いかがでしたか？

A 当期の国内経済は、企業収益の堅調さに加え、円安・原油安の影響によるコスト低減効果や所得環境の改善傾向は見られたものの、先行きの不透明感による節約志向の強まりで個人消費は低迷し、中国など新興国を中心とした世界経済減速の動きから輸出が伸び悩むなど、景気の足踏み状態が続きました。

建設業界におきましては、補正予算の効果があつた昨年と比べると公共投資には弱さが見られたものの、設備投資につきましては、好調な企業業績を背景として、そのペースは緩やかながらも回復基調が継続し、受注環境は底堅く推移しました。

Q 当期の業績はいかがでしたか？

A 当社グループの連結業績は、受注高64,547百万円、売上高58,032百万円、営業利益3,440百万円、経常利益3,669百万円、当期純利益2,265百万円となりました。

当期は、中長期経営ビジョンおよび中期3か年事業計画の初年度として、それぞれの目標達成に向けた足がかりとなる施策を展開してまいりました。具体的には、従来から得意とする設備改善、リニューアル工事の需要を確実に取り込むため、引き続きライフサイクル一貫ソリューションビジネスを推進し、お客様との信頼関係の構築を進めてまいりました。また、成長著しい医薬関連分野への営業強化を目的として社内プロジェクトを立ち上げ、受注拡大を推進してまいりました。さらに、将来の国内需要減少に備え、海外事業の強化を目的として、第二の海外拠点とすべくミャンマー事務所を開設いたしました。

その結果、産業設備工事の受注が大幅に増加したことから、売上高は前期より増加いたしました。利益につきましても、売上高の増加に加え、良好な受注環境により工事粗利益率も改善したことから、前期と比べ大幅な増益となりました。

	当期 (百万円)	前期 (百万円)
受注高	64,547	57,934
売上高	58,032	54,168
営業利益	3,440	2,068
経常利益	3,669	2,368
当期純利益	2,265	1,284

(注) 本報告書において、当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を指します。

Q 来期の方針を教えてください。

A 来期は、中期3か年事業計画の2年目を迎え、最終年度目標の達成に向けて重要な1年となります。当期の好業績をステップに、引き続き全社員が一丸となって取り組むのはもちろんのこと、社員一人ひとりが自らの職責を果たさなければなりません。

具体的には、医薬関連分野を中心とした産業設備への提案型営業の推進やお客様との関係強化を目的としたライフサイクル一貫ソリューションビジネスの推進、将来に向けての海外事業の規模拡大など当期のキーワードを継続して経営基盤の強化に努めてまいります。

また、新たに「自分の1年間の足跡を残そう」をスローガンに掲げ、より自発的、より能動的な業務への取り組みを求め、個人の成果と成長を促すことで人材の育成にも努めてまいります。

Q 来期の業績見通しを教えてください。

A 来期は、円高や株安の影響が景気を下押しし、停滞感の強い状況が続くと思われませんが、一方で企業の底堅い収益環境や雇用・所得環境の改善、原油安による実質購買力の上昇などの要因により、緩やかながらも回復へ向かうものと思われま。建設業界におきましては、補正予算の効果は期待されるものの、公共投資の減少傾向は継続し、設備投資につきましても堅調な企業業績から底堅く推移するものの、

景気を牽引するほどの力強さは見られず、先行き不透明な状況になるものと思われま

さ。このような状況のなか、当社グループといたしましては、お客様とのなご一層の関係強化を図るとともに、お客様の要望を汲み取った技術開発を推し進め、提案営業による産業設備工事の受注拡大を目指してまいります。

来期の連結業績見通しにつきましては、受注高59,000百万円、売上高60,000百万円、営業利益2,600百万円、経常利益2,700百万円、当期純利益1,750百万円を見込んでおります。

	来期予想 (百万円)
受注高	59,000
売上高	60,000
営業利益	2,600
経常利益	2,700
当期純利益	1,750

TOPICS ミャンマー事務所の開設について

平成27年6月にミャンマー連邦共和国のヤンゴンに、テクノ菱和ミャンマー事務所 (TECHNO RYOWA LTD. Myanmar Branch Office) を開設いたしました。

東南アジア地域においては、既にインドネシア共和国のジャカルタに駐在員事務所を設置しておりますが、第二の海外拠点を設けることで今後の更なる事業拡大を目指してまいります。



株主のみなさまへのメッセージをお願いします。

昨年4月に社長に就任し、1年が経過いたしました。おかげさまで、当期は前期を上回る業績を達成できました。一方で経済情勢はまだ不透明な部分が多く、長期的にも東京オリンピック・パラリンピック後の建設市場の縮小が懸念されます。当社グループといたしましては、今後の安定的な収益確保のため、更なる経営基盤の強化を目指してまいります。

当期の期末配当金につきましては、業績ならびに今後の事業展開等を勘案いたしました結果、1株につき9円とし、年間では前期より2円増配となる1株につき17円とさせていただきます。

当社グループのより一層の発展に向けて全力で取り組んでいく所存でございますので、株主のみなさまにおかれましては、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

扶桑薬品工業株式会社 茨城工場第2製剤棟・第2立体自動倉庫・第2物流棟



本物件は、粉末型透析剤の生産設備を増設し、生産拠点並びに供給能力の拡充を図ることを目的として建設され、災害時対策をも含めた安定供給体制を確立させるため、第2製剤棟に立体自動倉庫・物流棟を併設した建物となっています。既設熱源の不足分を補う吸収式冷凍機を増設し、コンパクト型空調機を主体とした空調方式を採用しております。また、除湿機・熱風乾燥機など特殊な機器構成で湿度管理を行っております。



概要	
完成年月	2016年3月
施工地	茨城県北茨城市
建物用途	医薬品製造工場・立体倉庫
延床面積	8,500.00㎡ (製剤棟)
物件形態	地上6階 (製剤棟)
工事範囲	空調・衛生設備工事

妙中鉱業株式会社 TSP工場



本物件は、業界有数のアミノ酸合成技術を有する新工場として建設されました。医薬品原薬・食品添加物・化成品の製造工場として、厳格な品質管理体制を敷き、国内外に製品を供給する拠点です。空冷モジュールチラー及びスチーム熱源の中央空調方式により、各製造室に適した温度・湿度・室内圧力・清浄度を実現しております。



概要	
完成年月	2015年12月
施工地	千葉県茂原市
建物用途	医薬品等の製造工場
延床面積	2,657.81㎡
物件形態	地上4階
工事範囲	空調・衛生設備工事

イーエスフーズ株式会社 健康食品工場



本物件は、健康食品等の受託製造の増産を目的として建設されました。メンテナンスや設備更新を容易に行えるよう製造エリア天井内にメンテナンス歩廊を設置し、各機器を歩廊付近に配置しています。また、全体室圧制御とは別に、各エリア毎の室圧制御モードを備えることによって、工場の部分的な稼働でも室圧が制御できるようになっています。



概要	
完成年月	2015年10月
施工地	静岡県浜松市
建物用途	食品工場
延床面積	7,540.96㎡
物件形態	地上3階
工事範囲	空調・衛生設備工事

日水物流株式会社 大阪舞洲物流センター



本物件は、ニッスイグループの冷蔵物流事業の関西地区における拠点として、大阪港北港に位置する物流センターです。冷蔵倉庫には必須のフードディフェンス対策及び地震対策を講じるとともに、保管効率の高い構造を採用し、貨物に応じた細やかな温度の設定が可能です。当社グループの松浦電機システムは、約800台のLED照明を設置することで適切な照度の確保を図るとともに、省エネルギー化にも貢献しました。

概要	
完成年月	2016年3月
施工地	大阪府大阪市
建物用途	冷蔵倉庫
延床面積	19,128.72㎡
物件形態	冷蔵倉庫棟 (地上6階 塔屋1階) 事務所棟 (地上2階)
工事範囲	電気設備工事

特集 30th 最先端の環境技術を創造し続ける研究拠点 技術開発研究所

当社の技術開発研究所は、多様化・高度化する技術革新に対応した新たな環境制御技術の開発ニーズに応えるため、昭和61年にその前身である技術開発センターの跡地に開所されました。以来30年間、会社創設時から蓄積された技術・ノウハウに最新技術を融合させる研究開発の拠点として、意欲的な活動を続けています。



所在地：東京都世田谷区経堂

POINT 顧客ニーズに基づいた様々な環境制御技術の創出

電子デバイス製造をはじめ、医薬品製造、食品製造など「ものづくり」の製造環境では、品質の向上や不良品率低減のため、温湿度・微粒子・微生物・気流・静電気などの様々な項目を制御することが要求されます。当研究所ではこれら高度な要求事項を達成すべく、様々な環境制御技術の創出に取り組んでいます。

<主な環境制御技術>

クリーン化技術



ケミカル汚染対応
スーパークリーンルーム

気流制御技術



高出力レーザーを用いた気流可視化

静電気制御技術



微弱X線による除電システム
(ION CUBE)

POINT

「見える化」によるお客様への技術アピール

空気の流れや静電気の帯電現象など、普段目に見ることができない現象を分かりやすく見せることで、お客様の疑問を解消し、当社の技術の有用性を訴求しています。現在、医薬品製造施設向けの要素技術として、高速風量制御システム (REAFS) や無発塵除電システム (ION CUBE) などを一堂に集め、可視化技術などを取り入れながら、誰にでも分かりやすいデモルームとしての機能を有する実験室の運用も進めています。



デモルーム内景



低温排熱利用気化式加湿型空調機 (ECOWET) と高速風量制御システム (REAFS)

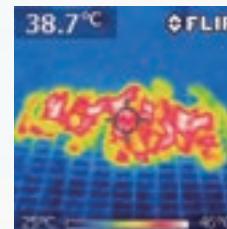


省エネ低湿度システム (RECODRY)

POINT

お客様の環境パートナーとして共同実験や 依頼実験など幅広く対応

お客様が抱く些細な問題点に対しても、共同して解決策を探っていきます。また、製品の環境影響を把握するための特殊環境室 (クリーンルームや低湿度室など) の貸出や、評価試験のお手伝いなどにも対応しています。



加熱製品の冷却実験



イオナイザ性能検証



超低湿度クリーンルーム



ケミカル除去性能評価試験

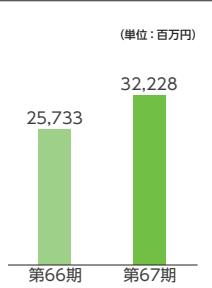
当研究所では、当社のテーマ「空気と水のテクノロジー」をキーワードに、今後も新しい技術の研究開発拠点として更なる発展を遂げるとともに、お客様・大学・メーカーとの共同研究開発、さらには各種学術委員会への参加や学会発表を通じ、今後も様々な分野で活動していきます。

受注高	売上高	経常利益	当期純利益
64,547 百万円 < 前期比 11.4%増 >	58,032 百万円 < 前期比 7.1%増 >	3,669 百万円 < 前期比 54.9%増 >	2,265 百万円 < 前期比 76.4%増 >

受注高構成比

産業設備工事

49.9% 32,228百万円
 当期は、円安による輸出採算の向上や原油安によるコスト削減効果を背景とした製造業の設備投資需要を確実に取り込み、食品・化学・医薬品・機械関連施設の受注が堅調に推移したため、受注高が大幅に増加しました。今後も、医薬関連分野を中心とした産業設備の受注シェアを更に伸ばすとともに、ライフサイクル一貫ソリューションビジネス体制によりお客様との関係強化を推進してまいります。



電気設備工事

4.4% 2,818百万円
 連結子会社の松浦電機システム株式会社は、LED照明などの省エネルギー技術の提案・施工や、受変電設備などの施工・メンテナンスを実施しております。当期は、食品工場・物流倉庫などの受注が好調でした。

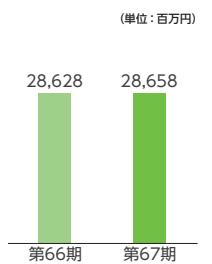


冷熱機器販売

1.3% 842百万円
 設備工事に関する空調機器等の販売を行っております。

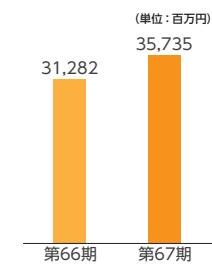
一般ビル設備工事

44.4% 28,658百万円
 当期は、公共施設については医療施設・庁舎の受注が好調でした。また、民間施設については、教育施設・商業施設の受注が好調でした。今後も東京オリンピック・パラリンピックまでの民間の設備投資需要を確実に取り込んでまいります。

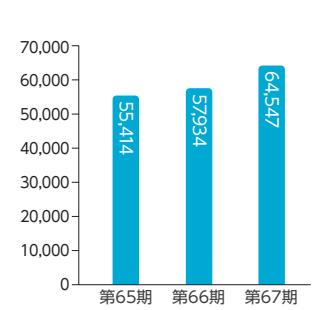


設備改善工事

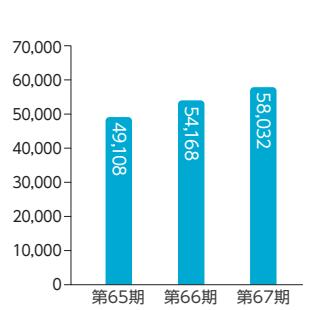
55.4% 35,735百万円
 施設のロングライフ化に貢献するメンテナンス工事と経年劣化した設備の機能回復や、より効率的なシステムへの見直しを図るリニューアル工事を中心とした事業分野です。



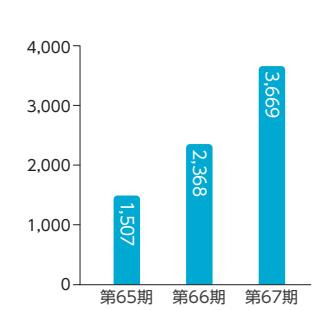
受注高の推移



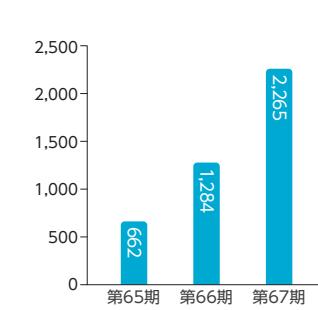
売上高の推移



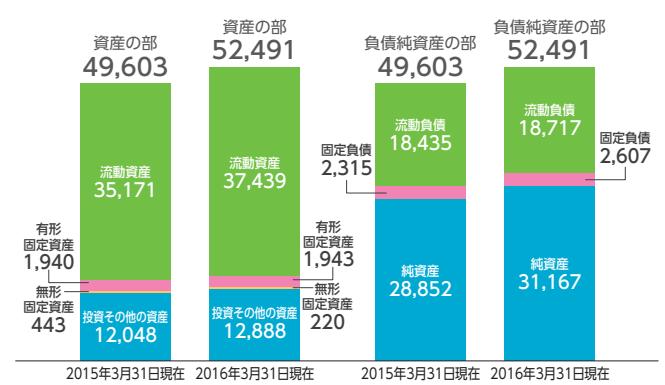
経常利益の推移



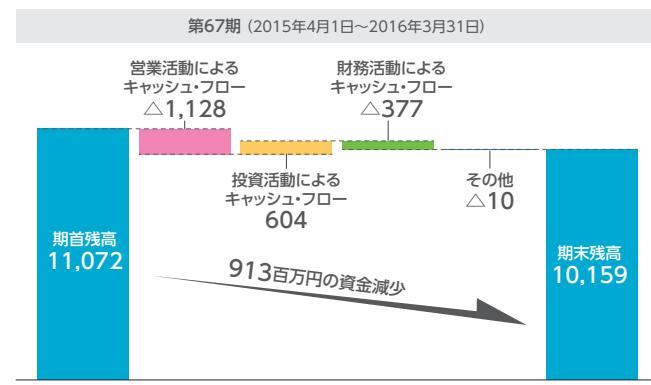
当期純利益の推移



貸借対照表の概要



キャッシュ・フローのポイント



財務のポイント

資産の部
 流動資産における受取手形・完成工事未収入金等の増加22億円、固定資産における投資有価証券の増加13億円、退職給付に係る資産の減少3億円を主な変動として、資産合計は前期末と比較して28億円増加し、524億円となりました。

負債の部
 流動負債における未払法人税等の増加3億円、固定負債における繰延税金負債の増加2億円を主な変動として、負債合計は、前期末と比較して5億円増加し、213億円となりました。

純資産の部
 利益剰余金の増加18億円を主な変動として、純資産合計は23億円増加し、311億円となり、自己資本比率は、前期末比1.2ポイント上昇し59.4%となりました。

キャッシュ・フロー
 税金等調整前当期純利益の計上による資金増加36億円、売上債権の増加による資金減少30億円、仕入債務の減少による資金減少9億円を主な変動として、現金及び現金同等物は、前期末と比較して9億円減少し、101億円となりました。

詳しい情報はウェブサイトへ

テクノ菱和 検索

会社概要 (平成28年3月31日現在)

商号 株式会社テクノ菱和
(英文表記 TECHNO RYOWA LTD.)
設立 昭和24年12月23日
資本金 2,746,800,000円
上場 東京証券取引所市場第二部
従業員 660名 (連結769名)
本社 東京都豊島区南大塚2丁目26番20号
登記上の所在地 東京都港区芝大門2丁目12番8号

主な事業所 技術開発研究所(東京都世田谷区)
東京本店(東京都豊島区)
千葉支店(千葉県千葉市)
茨城支店(茨城県土浦市)
北関東支店(埼玉県さいたま市)
東北支店(宮城県仙台市)
横浜支店(神奈川県横浜市)
名古屋支店(愛知県名古屋市)
静岡支店(静岡県静岡市)
大阪支店(大阪府大阪市)
中国支店(岡山県倉敷市)
九州支店(福岡県福岡市)
海外事業部(東京都豊島区)

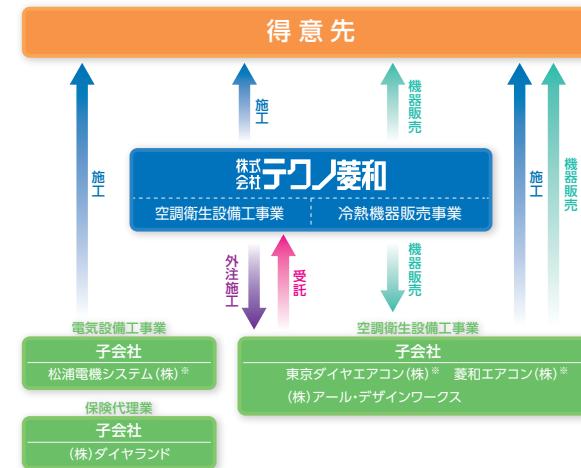
事業内容

当社グループは、産業用空調、冷暖房、給排水、衛生、電気設備等の設計・施工管理といった設備工事業ならびにそれらに付帯する業務を行っております。お客様のビジョンの実現に向けた計画提案、設計、施工、設備診断、アフターメンテナンスといったワンストップサービスを通じて、お客様を総合的にサポートしてまいります。

- 産業設備関連事業
清浄空間を必要とする各種製造工場や研究施設等における空調衛生設備工事を行っております。
- 一般ビル設備関連事業
事務所、学校および病院等の一般建物における空調衛生設備工事を行っております。
- 冷暖機器販売事業
設備工事に付帯する空調機などを販売しております。
- 電気設備工事業
松浦電機システム株式会社にて、電気設備工事を行っております。
- 太陽光発電事業
太陽光発電による電力を売電する事業を行っております。
- 不動産賃貸事業
菱和エアコン株式会社にて、不動産の賃貸業を行っております。
- 保険代理事業
株式会社ダイヤモンドにて、保険代理業を営んでおります。

企業集団の状況 ※連結子会社

東京ダイアエアコン株式会社*	株式会社アール・デザインワークス
所在地 東京都新宿区	所在地 大阪府大阪市
主要な事業の内容 空調衛生設備工事業	主要な事業の内容 空調衛生設備工事業
菱和エアコン株式会社*	株式会社ダイヤランド
所在地 愛知県名古屋市	所在地 東京都港区
主要な事業の内容 空調衛生設備工事業	主要な事業の内容 保険代理業
松浦電機システム株式会社*	
所在地 大阪府守口市	
主要な事業の内容 電気設備工事業	



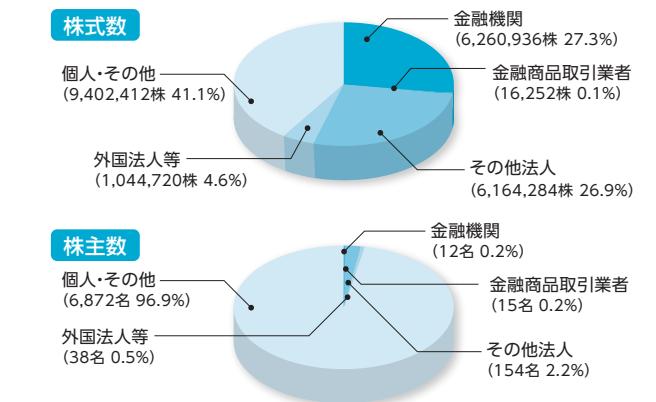
株式の状況

発行済株式の総数 22,888,604株
当期末現在の株主総数 7,091名

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
テクノ菱和取引先持株会	2,130	9.3
三菱重工業株式会社	1,424	6.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,131	4.9
株式会社みずほ銀行	1,131	4.9
東京海上日動火災保険株式会社	906	3.9
株式会社名古屋銀行	738	3.2
明治安田生命保険相互会社	734	3.2
株式会社京葉銀行	723	3.1
近重 次郎	672	2.9
テクノ菱和従業員持株会	658	2.8

株式の分布状況



役員 (平成28年6月28日現在)

代表取締役社長 黒田 英彦	取締役 根岸 孝雄	取締役 福士 富三
常務取締役 飯田 亮輔	取締役 鈴木 孝	常勤監査役 岡田 秀司
常務取締役 知見 扶公	取締役 星野 宏一	監査役(社外) 林 健一郎
取締役(社外) 楠本 馨	取締役 黒田 長憲	監査役(社外) 小栗 章雄
取締役(社外) 腰塚 和男	取締役 窪 和敏	
取締役 松橋 秀明	取締役 加藤 雅也	

株主優待制度のお知らせ

当社株式を決算期末日に100株以上ご所有の株主様に静岡の新茶をプレゼントいたします。



ご優待品「特選茶」

ご優待内容

ご所有株式数1,000株以上	静岡の新茶2パック贈呈
ご所有株式数100株以上1,000株未満	静岡の新茶1パック贈呈

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日

株主名簿管理人および
特別口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

単元株式数 100株

公告掲載URL <http://www.techno-ryowa.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

諸手続き
お問い合わせ先

【住所変更、買取請求その他各種お手続きについて】

- 証券会社をご利用の株主様
お取引の証券会社等にお問い合わせ下さい。
- 特別口座に記録された株式をご所有の株主様
特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせ下さい。

【未受領の配当金について】

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

特別口座をご使用の株主様へ お早めに株式をお振替え下さい

特別口座に記録されている株式は、証券市場での売買を行うことができません（単元未満株式は除く）。また、特別口座で管理されている株式は相続や贈与時のお手続きが煩雑になってしまいます。

ご所有の株式が特別口座に記録されている場合は、証券会社等に一般口座を開設し、特別口座から株式をお早めにお振替え下さい。詳しいお手続きにつきましては三菱UFJ信託銀行にお問い合わせ下さい。

お手続き	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL:0120-232-711 (通話料無料)

株式会社 **テクノ菱和**

<http://www.techno-ryowa.co.jp/>

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2丁目26番20号

お問い合わせ TEL : 03-5978-2541



環境に優しい植物油インキ
を使用して印刷しています。

UD
FONT

